

おおさかグローバルレター VOL. 4

大阪府国際化戦略実行委員会 ☎06-6948-6781

おおさかグローバル塾は、今年で2年目を迎えました。今年4月21日に英国、米国両コースの入塾式を合同で開催し、12月までの9カ月間、短期留学準備、短期留学、長期留学準備の3つのフェーズに分け、英語によるコミュニケーションやプレゼンテーション技術からTOEFL、IELTSの語学試験対策まで、留学に必要な様々なスキルの学習と実践に生徒たちは励んでいます。とりわけ、8月に英国、米国でそれぞれ2週間滞在する短期留学では、大学での授業、企業訪問、ボランティア体験等、実際の留学さながらのプログラムを体験し、将来の進路をポジティブに考えるような大きな刺激を受けて帰国しました。今回は、今年のグローバル塾短期留学の様子をご紹介します。

【米国留学コース】

米国留学コースは、8月1日から14日まで、サンフランシスコを中心に滞在し、4つの大学訪問と、数多くのプログラムに参加しました。

まず最初に訪れたのは、全米屈指の名門校として知られるスタンフォード大学です。敷地内のメモリアル・チャーチなどを見学

した後、工学部の研究棟を訪問し、教授や学生がどのように研究を進めているのか見学しました。



(スタンフォード大学にて)

次に、カリフォルニア州クパチーノ市にある州立 De Anza College を訪問しました。同大学は、コミュニティーカレッジでは全米トップ5に入る優れた大学で、カリフォルニア大学及びカリフォルニア州立大学への編入生の数は毎年全米一、二を争っています。今回の訪問では、生徒のために12人の学生がアテンドしてくれました。コミュニティーカレッジは、授業料が年間50万円以下と負担が少ないことが魅力です。費用面でアメリカ留学を躊躇するという事も聞きますが、今回の見学で別の留学方法があることを知り、米国への進学を決意するきっかけとなる生徒もいました。

続いて、昨年に引き続きサンフランシスコ州立大学を訪れ、3日間に渡り生徒向けに用意された英語学習授業や専門講義を受講しました。休憩時には、希望する学部を自主的に見学したり、教授に話を聞きに行ったりする生徒もいました。同大学での講義を通し、留学に対するビジョンがより具体的なものとなったようです。

最後に訪れたカリフォルニア大学バークレー校は、ハーバ



(サンフランシスコ州立大学授業風景)

ード大学やスタンフォード大学などと並ぶ世界屈指の名門校として知られています。生徒たちの誰もが知っている米国トップ校には、学ぶための全てが揃っており、ここで学んでみたいという気持ちが大きく高まると、早速、実際に学んでみたい学部のオフィスを訪れ、話を聞く行動的な生徒もいました。

現地滞在中は、ボランティアワークにも挑戦しました。

1つ目は、サンフランシスコのサルベーションアーミー(救世軍)のボランティア活動です。貧困により学校を途中でや



(サルベーションアーミーのボランティア)

めることを余儀なくされた子どもたちに、新学期から学校へ復帰してもらうことを目的に、かばんやノートなどの学用品を配布するもので、多くのアミュ

ージメントが用意されています。このイベントには約1700名が来場し、生徒たちは、ゆかたで子どもたちを迎えるなど工夫を凝らしていましたが、喜び子どもたちの姿を見て、ボランティアのやりがいを感じていました。このほか、プレジディオ国立公園の環境保全のため、侵入植物の除去や植物の移植など、現地の職員の方にお話を伺いながら、日本ではなかなか経験することのできない社会におけるボランティアの役割の重要性も学ぶことができました。

このほか、シリコンバレーの代表企業である Yahoo、



(Google 本社にて)

twitter、Google の本社を訪問し、そこで働く日本人社員と意見交換をしました。恵まれた職場環境で自由に仕事に取り組む風景

にあこがれを覚えつつも、しっかりと成果を追及していくという米国流のスタイルを肌で感じていました。この企業訪問では、海外の仕事現場を見聞きし、海外で学び様々な分野で活躍する姿を重ね合わせるまたとないチャンスとなったようです。

サンフランシスコの夏は日本と違い肌寒かったです。体調を大きく崩す生徒もなく、日本に帰国することができました。毎日ぎっしりと詰まったスケジュールでしたが、生徒たちは全てのプログラムにおいて、明確に目的を持って積極的に行動することができました。米国で過ごした14日間は、生徒たちにとって大きな自信につながったことでしょう。

【英国留学コース】

今年の英国留学コースは、8月12日から25日までの14日間の日程でそれぞれに特徴のある3つの大学で寮生活をしながら、グローバル塾向けに用意されたプログラムに参加しました。最初に訪れたのは、ロンドン西郊トゥイックナムにある17世紀からの歴史を有するセントメリーズ大学です。ここでは、英国留学のオリエンテーションのほか、英国の法や政治システムの講義、体を動かしながら集中力や洞察力、表現力を養うドラマスタディの授業を受けました。また、英国在住の日本人による講演も行われ、かつてソニーのヨーロッパ統括を務められた鶴見道昭氏からは、



(セントメリーズ大学にて)

350 キロ離れ、イングランド北部最大の都市リーズの中心部に広大なキャンパスを構えるイギリスでも人気の高い大学です。ここでは、ヨークシャー地方ゆかりのブロンテ姉妹に関する講義があり、大学の図書館に所蔵されるブロンテ直筆の原書や書簡に直接触れるという貴重な体験をしたのち、実際にブロンテ姉妹が暮らしたハワース村に行き、現存する彼女たちの住まいを見学しました。また、18世紀の階級社会を学ぶため、生徒たちがロールプレイ方式で当時の生活や風習を学んだのち、リーズ郊外にある貴族の大邸宅「カントリー・ハウス」も見学しました。単に講義で聞くだけでなく、実際に物に触れ、歩き、自分の目で見ることで、学習対象をより具体的なものとして捉えることができ、生徒たちの興味や関心がとても高まっている様子でした。このほか、機械工

出ているんなことに挑戦することが大切だといったエールが送られました。海外で実際に活躍している「先輩」から直接聞く話に、これから留学をしようと考えている生徒たちから「とても感銘を受けた」といった感想が聞こえるなど、大いに勇気づけられた様子でした。

2カ所目に訪問したリーズ大学は、ロンドンから約



(リーズ大学図書館での講義風景)

という比較的新しい大学ですが、多くの分野でハイレベルの研究を行っており、とりわけ気候変動に関しては世界トップクラスにあります。また、学生満足度が非常に高く、2013年には全英第1位となっています。ここでもグループで議論し



(イーストアングリア大学授業風景)

ながら答えをまとめていくという形式でのメディア、行動心理学、英国留学における学習スキルといった講義のほか、英国の大学で学ぶ意義についてのオリエンテーションも用意されていました。さらに、同大学が設置する視覚芸術センターでの所蔵美術品の見学や大学内施設でのスポーツ等、充実した施設を体感するプログラムにも参加でき、学ぶことが楽しくなるような英国大学の魅力を感じ取ることができました。

短期留学を通じて、現地で用意されたプログラムはすべて英語により行われましたが、途中、体調不良等で不参加となる生徒が一人も出ず、全員が共通の経験を得て大阪に帰ることができました。生徒たちがそれぞれに英語や留学に関して自分なりの考えを持ち帰ることができたことは、英国留学コースにとって大きな成果ともいえました。

今年も無事に短期留学は終了しました。英国、米国滞在中は、グローバル塾生の授業に対する意識の高さや積極的な活動ぶりが現地の関係者に高く評価され、まさに大阪の高校生の代表と呼ぶにふさわしい活動ぶりとなりました。今後、長期留学準備講座でさらにスキルを積み、海外留学に挑戦する生徒が一人でも多くであることを期待したいです。

学と実験の講義や国際ビジネスでも、単に一つの答えを求めるのではなく、答えを出す過程でなぜそう考えたのか、しっかりと説明することの大切さを教わり、これまで受けた授業との違いを実感していました。

最後に訪れたのは、英国東部の都市ノリッチにあるイーストアングリア大学です。この大学は、設立されてからまだ50年

ながら答えをまとめていくという形式でのメディア、行動心理学、英国留学における学習スキルといった講義のほか、